

事前質問及び回答

第13回 やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議

No.	事前質問	回答
1	これらの戦略を実施するのに4年間でどれくらいの予算が必要になるのでしょうか。	<p>総合戦略は、人口減少克服と、地方創生に関する取組について、大きな視点での方向性や、基本目標に向けて考えた、施策の展開を示すものとして取りまとめたものであり、個別事業を積み上げたものではございません。</p> <p>最小の経費で最大の効果をあげることができるよう、国や県との情報連携も密に行いながら、実証実験に積極的に手を挙げるなど、国や県の補助金なども有効に活用し、地方創生の推進に取り組んで参りたいと考えております。</p> <p>なお、個別の計画としては、地方創生推進交付金事業の実施計画がございますが、令和3年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八代市健康交流のまちづくりを目指したヘルスツーリズム構築事業 2,500万円 ・ウェルネスフードを核とした商流拠点づくりプロジェクト 約2,400万円 ・DXによる八代圏域ツナガル推進事業 約2,060万円 <p>の3事業について、計画を申請しております。</p>
2	若年層における人口動態分析で八代に住むために必要な環境・支援のところで一番多かった『商店や娯楽が充実している』に対応する施策について教えてください。	<p>この意識調査では、「働く場が多い」「自分に合う仕事を探しやすい」「企業や新たなチャレンジがしやすい」といった項目についても、多くの回答を頂いておりますことから、本総合戦略においては、“働く場の創出”に関する施策を記載したところでは、(基本戦略Ⅱ働きたいまち)</p> <p>まずは、若年層の転出が少なくなる、または大学進学等で一旦市外に転出したとしても、就職に際して、Uターンしてくるなど、若者世代の人口が増えることが重要と考えます。</p> <p>このように、働く場を創出することで、若者世代の人口が増加し、その結果として『商業施設や娯楽施設が充実する』という効果が表れるよう、Society5.0において人と企業に選ばれる”やつしろ”の実現を目指します。</p>
3	基本目標1. 災害に強く安心して暮らせるまちづくりの(3)先端技術を活用した防災・減災の推進のところでAI技術などを活用しとなっていますが、八代地域の防災の中で地震(八代日奈久断層など)予測のデータの蓄積がないためAI技術が使えないのではないかと、そのためのデータを収集することが必要だと思えます。AIを活用するためのデータは何を用いられるのでしょうか？	<p>本総合戦略に記載しているAIの活用として、現在のところ、災害時に使用可能なチャットボット(発言に対して適した応答を返すAI)を検討しています。これは、内閣府の実証実験ですが、被災者支援のためのチャットボットも検証しているところです。他にも、SNSから適した情報を収集するAIもありますので、このようなものも含め、防災減災の取組を推進していきたいと考えております。</p>
4	全体的な戦略としてデジタル化の推進によるところが大きくIT関連企業にはビジネスチャンスだと思います。高度な内容が含まれますのでなかなか地元の小さな企業ではできないかと思いますが、大手企業と地元の企業の取り合わせで推進して頂くと産業育成もでき八代市に雇用も生まれると思えますがいかがでしょうか？	<p>ご質問のとおり、本市としましては、デジタル化の推進が、地元企業の発展及び若者の雇用にどれだけ寄与できるかが重要であると考えております。</p> <p>本市としては、高度なものを実現するというよりも、ちょっとした技術でも、便利な技術があれば、地域に早く、広く浸透させることが、地域及び企業が生き残っていくために重要であると考えています。大手やIT関連企業と地元企業が連携できる機会をつくり、情報や技術、ノウハウを地元に戻し、できれば、地元の企業が新たな事業、技術を創出していく好循環を創出したいと考えております。</p>